巻 頭 言

国民健康保険　富士吉田市立病院
院長　松田　政徳

平成 29 年 2 月より富士吉田市立病院院長に就任いたしました松田政徳です。伝統ある富士吉田市立病院院長としての重責を担いましたうえは、富士吉田市民の皆様、近隣の市町村の皆様にとってより良い病院となりますよう、職員一同努力していく所存です。何卒よろしくお願いいたします

今回、平成 29 年度の病院年報の巻頭言を書くにあたって、ご挨拶をかね、私のプロフィールを簡単に述べさせていただきます。1960 年に甲府市に生まれ、甲府南高校卒業後、山口大学医学部に入学、1986 年の大学卒業と同時に山梨に戻り、癌の臨床に携わりたいとの考えから、当時最も癌患者を扱う頻度の高かった山梨医科大学第一外科に入局致しました。その後 1993 年から約 2 年間、腫瘍免疫の研究のためスウェーデンのカロリンスカ研究所に留学し研究を行いましたが、当時私が出した結論は、「腫瘍免疫で固形がんを治すのは無理だ」ということでした。それから 25 年経過した現在、皆さん御承知の通りそのカロリンスカ研究所で日本人の癌免疫療法に関する研究に対してノーベル賞が授与されたことは、私にとってとても感慨深いこととなりました。帰国後は、山梨大学で肝癌の治療を中心とした肝臓外科を担当し、20 年ほど前からは肝胆膵外科グループのチーフとして肝胆膵領域の手術と臨床研究、教育を担当してまいりました。山梨県は日本住血吸虫症（いわゆる地方病）とそれに関連した C 型肝炎のため肝細胞癌患者が多く、10 年ほど前までは東日本では死亡率が 1 位でした。近年は全国平均まで改善しましたが、今でも肝疾患は重要な疾患であることに変わりありません。当院においても、肝臓病の皆様の力になれればと思っております。

さて、地方の自治体病院は、住民の高齢化、人口減少さらに医師の偏在などによりその経営環境は悪化しています。しかし、当院にとっていかなる状況においても重要なことは、地域で必要とされる病院であり続けることです。それが維持されている限り存続は可能です。組織にとって重要な要素は、共通の目標、協働意思そしてコミュニケーションの 3 つであると言われています。当院にとっての共通の目標は、地域の住民にとって必要とされる最善の医療を柔軟に提供することであると考えます。この目標を常に念頭に置き、職員一丸となって、良好なコミュニケーションのもと着実に取り組んでいきたいと考えています。